

一年四ヶ月の短い期間の沖縄でしたが、総合事務局の皆様ありがとうございました。

パリは夏時間が終わり昨日の日曜から日の暮れるのが一時間早まりました。今週のハロウィーンが終わると、それでどんよりと暗い長い冬の始まりです。

空気が乾燥したヨーロッパは夏は本当に気持ちよく過ごしやすい季節ですが沖縄でまず思うのは南の島の暖かい湿った空気です。十五年

ぶりに赴任して那覇空港のビルから外に出た時も胸に吸い込んで懐かしく思った南の国の空気のおいしさです。

洗濯物をいつまでたっても乾かさず、ガシマルがたくさんの気根で捕らえる湿った空気。夏の数ヶ月間の寝苦しい夜の元凶ですが、この私たちを包み込むような生暖かい空気が気に入っていました。これが運んでくるスコールのような雨も、その雨の中を平気で歩いていくヨーロッパ

てそのうち幹からダイレクトに緑の塊が吹き出し、別のところからも出てきて、あの木は今はどうなっているでしょう？

事務局の四階の窓からアカギの木の道路のまたその向こうに泊港が見えますが、そのコンクリートの広場、夕方にはよく中学生でしゃうか子供たちが集まってスケボーや自転車の曲乗り（何というのでしょうか？）ジャンプをしたり後輪で立ちクルクル回ったり（を）していました。

「とまりん」の方へとつながる広い階段があつて腰をかけてたむろするにも格好の空間なのです。「学校はいいの？」という要素ももしかしたらあつたのかも知れませんが、停泊している慶良間行きの船と日を受けてきらきら輝く港内の海を背景にした子供たちのシルナット、私が好きだった沖縄の二つです。

以前に一年三ヶ月ほど沖縄にいた時は子供も小さく、毎週さんご礁の上でバルトスヌを追いかけていました。その頃に較べるとキャンピングカー入口から城間あたりにかけての古びた建物の雰囲気はそのままですが、五十八号のガシマルは大きく立派になり、国際通りの屋下がり、三人五人の二団でおしゃべり

している中高生の日に焼けた手足は変わりませんが、那覇の町はビルがたくさん建ち、浦添のバイブライの急坂は相変わらずですが、軽飛行機が飛ぶ草野原だうたハビートのあたりは人がいばいになりました。今度の二年四ヶ月は変わっていない沖縄、変わらない沖縄を無意識のうちに探していたかも知れませんが、最後にもうひとつ。今でも続いているでしょうか？NHKの「ヨロシヤル」民放はほとんど見ないのでテレビのスイッチが入っていればそれはNHKでしたが、不定期に流れて来る「受信料をちゃんと支払ってください」家主のガキヤさん」というCM。これが好きで何度見てもそのたびに「ヤッ」としていました。

私は沖縄のガキヤさんが好きなのです。

沖縄在勤の思い出

(社)国際建設技術協会欧州事務所長

(沖縄総合事務局前次長)

加納 研之助



風台風で倒された総合事務局前の国道の大きなアカギの木。台風が過ぎた後、根も殆どなく枝も払って丸太棒のようになつたそれを、しかしトラックの荷台に積んで運び去るのではなく、添え木をして元のところへ立て直しているではありませんか。いくら沖縄でも小さな苗木とかではなく昨日まで照りつける太陽を遮って日陰を作っていた木なのに本当に？と思いましたが、やが

